大教室での多人数の授業だっただけに、ホッとした

ある大学での後期の授業を終えた。

毎回出席調べがてらその回の授業内容の感想を書いてもらっているが、授業の最終回だからか、次に類するような感想（抜粋）を追伸してくれていた学生もいた。

３００席の大階段教室で後ろの方の席の学生の表情は読み取れないほどの多人数の授業だっただけにどこまで伝わっているかなと不安もあったが、こうした感想をくれる学生もいてくれて、ちょっぴりホッとした(^^;)

・これまで先生から教わったことは、教師になるならないに関わらず、人間が生きること、人と人と係わり合い、コミュニケーションなど障害者の事例からさまざま考え方を導き出してもらい、考えさせられました。ここまで生きることに対して考えたのは初めてであり、これからも考えるきっかけとなった。

・先生の授業はとてもためになりました！！！本当に今までの授業の中でも、すごく真剣に聞きたい！！！と思える授業でした。ありがとうございました。

・病気を持っている人、障害のある人は一生それから逃げられない。私達は逃げられるけれど当事者は逃げられないという先生のお話を聞いて、逃げている自分に気付きました。大学入学した時の自分から逃げ続けている自分に気付きました。毎回、とても大切な授業をして下さり、ありがとうございました。

・今までの授業で、障害の理解を通して自分に何が出来るかを考える機会が出来ました。学んだことを生かして、これから更に人と関わる仕事に就くために必要な心がまえを勉強していきたいと思います。

・“あなたたちがエリートだ”、“悩みの後に進歩あり”との先生の言葉、忘れないで教師を目指し、まずそのスタート地点に立って、そこからたくさんの人と出合い、たくさん悩みたいと思います。

・先生の講義を通して、人と係わり合うプロとは自らを検証する勇気ある人だということ、「人と係わり合う」ことにはゴールがないが、人が生きる喜びを支援するプロを目指し、大いに悩んで勉強して行こうと思います。

・先生の授業では、いつもプロになる！という意識をふるい立たせていただきました。先生の言葉一つひとつを思い出して頑張りたいと思います。

・７時間のご講義頂きましてありがとうございました。先生の講義は VTR を通してより具体的に現状を把握することができ、学ぶことが多い講義でした。

阿部幸泰　　（2009 年 11 月 7 日　記）